

全史料協会長サロン(オンライン)第4回実施記録

開催日時:2026年3月3日(火曜日)19時30分～21時

テーマ:「みんなで翻刻」活用

ホスト:辻川敦 全史料協会長

ゲスト:柳沢芙美子さん 元福井県文書館職員

堀井雅弘さん 福井県文書館職員

参加者:全史料協会員機関職員および個人会員等 17人

発言者:橋本雄太さん 国立歴史民俗博物館准教授 ほか

実施内容

国立歴史民俗博物館・東京大学地震研究所・京都大学古地震研究会が中心となって開発した「みんなで翻刻」は、公的機関や古文書を学ぶ市民による古文書翻刻の成果を共有・発信できるプラットフォームであり、解読へのAI活用やくずし字学習支援など多彩で魅力的な機能を備えたウェブ上のシステムとなっている。

アーカイブズ機関の営みを大きくステップアップする可能性を秘めたこのシステムにいち早く注目し、機関の活動に活かしている福井県文書館の取り組みについて、元職現職のおふたりに話をうかがった。

報告1 「『みんなで翻刻』へのキセキ・その後」 柳沢芙美子さん

- **連携の経緯:** 2020年5月、Twitter上でのやり取りを偶然の契機として、有志の専門家(橋本氏ら)からアドバイスを受け、保守の範囲内の改修でデジタルアーカイブ福井(DA福井)のIIIF対応が実現した。これにより、2020年8月から「みんなで翻刻」内に公式プロジェクトを立ち上げた。
- **連携の目的と意義:** 米国国立公文書館(NARA)の「市民アーキビスト」の事例が単なる体験イベントにとどまらず、アーカイブズの中核業務に市民が参加できる仕組みであることに感心したことが背景にある。

- **今後の展望:** AI によるくずし字解読や OCR 技術が進化するなか、全文テキストは完璧な精度でなくとも検索の手がかりとして有益である。「みんなで翻刻」で作成されたテキストデータを今後 DA 福井の利便性向上にどう活かしていくかが重要。

報告 2 「福井県文書館の取り組み」 堀井雅弘さん

- **講座とグループ活動:** 2022 年 6 月から「みんなで翻刻」を活用した講座を開始し、同年 10 月からは月 1 回の「少人数翻刻グループ」の定例会を立ち上げた。これにより、自宅での翻刻作業と、定例会での疑問解決・相談が組み合わさる「好循環」が生まれた。
- **展示での活用:** 2026 年 1 月～3 月、文書館の閲覧室でテーマ展「くずし字に生命を吹き込む～翻刻で拓く歴史資料の世界～」を開催、同時に「みんなで翻刻」の体験会も実施した。
- **プロジェクトの独自運用:** 2025 年 8 月の「みんなで翻刻」リニューアルに伴い、同年 10 月に公式プロジェクトのオーナー権限を取得した。これにより、資料の登録(Manifest URI の入力)や管理が館独自で簡単に行えるようになった。
- **課題と可能性:** 今後の課題として、自館のシステムや検索窓と「みんなで翻刻」のテキストデータの連携、ガイドラインを活用した参加者のサポート、非公開プロジェクトを活用した資料整理ボランティアや仮目録作成の可能性などが考えられる。また、自館の DA 及びサービスの充実と「みんなで翻刻」の充実を相互に高めていくことを考えている。

意見交換・チャットでの主な議論

- **「みんなで翻刻」のデモ:** 堀井さん、ならびに参加者のひとりで「みんなで翻刻」管理運営者のひとりである国立歴史民俗博物館准教授の橋本雄太さんが、Zoom 画面上で「みんなの翻刻」ページのデモを行い使い方や仕組みを解説。橋本さんからは、同システムの運用状況や利用の仕方、関連情報や事例のサイト情報なども提示された。
- **翻刻データと所蔵機関の紐づけ課題:** 所蔵機関側のデータベースでは、「みんなで翻刻」で自館の公開画像が翻刻されている事実が分からない(紐づかない)という現状の課題を共有。
- **連携事例の紹介:** 上記の課題に対し、学芸大学では「みんなで翻刻」内の該当プロジェクトへリンクを張って紐づけている事例を橋本さんが紹介。
- **取り組みへの評価:** 橋本さんは、福井県文書館が非常に早くから資料のオープンデータ化に取り組んでいた姿勢を高く評価した。
- **活用の呼びかけ:** ホストの辻川会長から、全史料協会員機関の多くが取り組む古文書翻刻や市民参加の古文書講座の成果を公開し、古文書を学ぶ市民が成果を実感できる場として「みんなの翻刻」はきわめて有意義なツールであるとして、福井県の事例に学んで積極的に活用していくことを呼びかけた。